

(No. 28)

事例名	莫祢（あくね）ゴールド創世塾
地域	鹿児島県阿久根市
実施主体	NPO法人ぶれでお
活動要約	阿久根市の観光・教育の再構築のための文化財発掘・人材育成をおこなう
主な分野	「地域再生」・「世代間交流」・「図書館活動」
主な関係者	運営者：NPO法人ぶれでお 参加者：市内の学童、高齢者、地域住民
キーワード	読み聞かせ／文化保存／世代間交流

## ■活動のきっかけ・経緯

- ・阿久根市においては、以前より、読書指導、自然観察、歴史・伝統文化の受け継ぎが十分でないことが懸念されていた。
- ・市立図書館の指定管理者となっていた「NPO法人ぶれでお」の川崎氏（現理事長）は、「児童の健全育成」「高齢者の生きがいつくり」「若者の定着」をキーワードとする「地域再生」を目指して、図書館を起点に地域に根ざした活動を企画した。
- ・具体的には、1. 移動おはなし会、2. 莫祢文化財ふしぎの旅、3. わらじ作り体験教室、4. ふるさとづくり講演会、5. 阿久根文化財調査研究の実施、および、読み聞かせ指導者育成である。
- ・また、この「莫祢（あくね）ゴールド創世塾」の準備段階として、昨年度は「莫祢（あくね）創世塾」、一昨年度は「学童創世塾」を実施し、積み重ねによる活動の充実を図ってきている。



<高齢者に対しては体操も交える>



<莫祢文化財ふしぎの旅の様相>

## ■活動内容

### ●活動の概要

- ・「親子・家族・地域住民の絆が新しく生まれ、郷土への関心が深まるように図ること」「幼児から高齢者までの交流を活発にすること」「人材発掘、地域発掘を介して、児童の健全育成・高齢者の生きがいつくりを図ること」「学校・住民との連携強化を図ること」「本事業をモデルケースとし、更なる広域連携への取り組みを図り、高齢化や児童数減少に対応した新しい人づくり・ふるさとづくりの仕組みを構築すること」を目指すもので、本年度の活動は次項（具体的な内容）の5種類の活動と1種類の

特別なコースからなっており、今後、これを基本の形として活動が継続される予定である。

## ●具体的な内容

本年度の実施期間は、平成23年8月～平成24年2月の約6ヵ月間であった。

### 1. 移動おはなし会の実施

地域の特性や昔話を活かし、郷土の歴史や文化財を再認識し、地域への愛着へと繋げるために、市内学校2校・いきいきサロン2箇所ですべて12回の読み聞かせを実施している。延参加人数は370名ほど。

### 2. 莫祢文化財ふしぎの旅開催

文化財の伝承や自然のすばらしさを体験するために、一般市民を対象に、阿久根の名所・旧跡をめぐるバスツアーを実施している。阿久根市よりバス1台の提供を受けている。コースにいくつかの地区を含む広域とすることで、世代と地域を越えた交流に繋がったという。(参加者は48名。)

### 3. わらじ作り体験教室開催

親子の絆も深まり、先人の知恵を学び指導者育成に繋げるために、一般市民を対象にわらじ作りの歴史や作業工程の説明を含む体験会を2回実施した。(参加者は24名。)

### 4. ふるさとづくり講演会開催

一般市民と児童を対象に俳句を通して人とのつながり、新しいまちづくりについて特別講師による講演会を開催。尾崎小・田代小児童の俳句も紹介、他地区との交流も深まり郷土を改めて見直し、ふるさとの伝承へ繋げることができた。(参加者は田代小学校児童を含め45名。)

### 5. 阿久根文化財調査研究

県・市指定文化財11箇所、史跡関係3箇所、石塔類5箇所、石橋1箇所、計20箇所を中心に再調査した。現地調査、聞き取り、まとめの手順を踏んでいる。

文化財が存在することすら詳しく知らない現状において、地域の掘り起こしを行い、次世代へと語り継がれる生きた文化資料を作成し、地域全体の活性化に繋げていく基盤づくりが目的である。

## ●特別なコースとしての「読み聞かせ指導者育成講座」の実施

読み聞かせを通じて郷土阿久根の歴史や文化を伝承し、子供たちが地域への愛着と誇りを持ち、高齢者が元気なまちづくりを目指して活動しうるために実施された「読み聞かせを中心とした指導者」育成講座である。

読み聞かせを理論から学び、実践までを高齢者施設、福祉施設、児童クラブ、学校などで実習を重ね経験を積んでいく。

6ヵ月全24回の講座で受講料36,000円の有料講座となっている。

阿久根市外の参加者も含む22名が受講した。

講座のメニューは次のように充実している。

- (1)【講演】「読み聞かせの現代的意義」
- (2)【実技】読み聞かせ 絵本・紙芝居
- (3)【実技】読み聞かせ 大型絵本・小道具など
- (4)【講演】「公立図書館と読書活動」
- (5)【実技】読み聞かせ 紙芝居「阿久根の七不思議」朗読 「神舞」
- (6)【講演】講演「昔話」
- (7)【実技】実演 エプロンシアター
- (8)【実技】実演 パネルシアター
- (9)【実演】実演 ペープサート
- (10)【講演】「神話・伝承」
- (11)【実技】実演 指遊び・手遊び
- (12)【実技】実演 プログラム構成・教材の特性
- (13)【実技】実演 手作り工作・読み聞かせ
- (14)【講演】「絵本」
- (15)【現地研修】実践 みなみ保育園
- (16)【現地研修】実践 尾崎いきいきサロン
- (17)【講演】「読み聞かせの方法」
- (18)【現地研修】実践 田代小学校
- (19)【現地研修】実践 大川中学校
- (20)【現地研修】実践 デイハウスふたば折多
- (21)【講演】「読み聞かせの課題」
- (22)【現地研修】実践 グループホームはまゆう
- (23)【現地研修】実践 鶴川内児童クラブ
- (24)【修了式】成果発表 修了証書授与式



<読み聞かせの練習風景>



<園児たちと一緒に>



<理論も学ぶ>



<現場実習の様様>

## ■ポイント・工夫している点

- ・当NPOの業務のひとつである指定管理者としての図書館運営業務を核に、発展的に活動を拡大・展開してきている。阿久根の歴史や文化に焦点をあてた活動は、高齢者の知識と知恵を活かす生きがい作りになり、文化財発掘・人材発掘により地域の資源を活用することに繋がっている。
- ・今回の事業では、対象として限界集落と新興住宅地という互いに異なる2つの地区を選定し、これらの地区の異なる点と共通する点（役員と区民の結束が強い点）を組み合わせ2つの地域を繋げることで、子どもから高齢者まで世代を超えた交流が図られ、住民同士の繋がりができた。地域住民の絆が新しく生まれることは、郷土を見直し関心を深める活動の基盤となっている。
- ・読み聞かせ指導者育成講座は、先人たちの意思を受け継ぎ頑張っている活力を持つ高齢者と、未来創造の担い手である幼児・学童と、これら両者を支援し阿久根に真の共生協働を立ち上げる中間層の三者が一体となるよう構成した。本講座は、読み聞かせを通じて、地域の貴重な財産と共に、人と人の絆をも次世代へ繋げていくための人材育成の場であり、当地域の新たな礎と位置付けている。

## ■課題と今後の展開

- ・事業を進める上で、「役割分担の重要性」と「異なる立場から協議を経ることでの発展性」を実感した。今後は、少子高齢化の深刻な問題の解決を目指して、活発な地域活動をしている団体をモデルケースとし、学校・自治体と連携・協働した取り組みとすることを事業運営の方針とする。
- ・更に、市内の高校・県内の大学との連携を進め協力体制を拡大することと当事者の多様な意見を取り入れることを活動の基本とすることにより、市民参画による地域発展を目指したい。
- ・事業展開における必要経費については更に検討していく必要がある。事業を継続させ地域の活性化に繋がる展開とするためには経費確保は重要な課題である。実績を重ね、更なる行政支援も得られるよう努めねばならない。
- ・読み聞かせ指導者については、平成24年度は、第1期生を各関係先へ派遣し、阿久根市の教育・文化の向上に寄与すべく新しいスタートを切った。今後は読み聞かせを通じて、子どもから高齢者まで誰もが心豊かで楽しく暮らせる地域をつくり上げることを目指して活動を続けていく。読み聞かせが、子どもたちに夢を持たせ、高齢者が元気になり、若者が定着する町を作り、更に、人と地域の絆を生み出す新しい産業としても確立し、地域再生の礎となると確信している。

連絡先	NPO法人ぶれでお（理事長：川崎 徹志） 住所：鹿児島県阿久根市高松町2 阿久根市立図書館内 電話番号：0996-72-0607
-----	--

(No. 29)

事例名	上尾・アブセック
地域	埼玉県上尾市、桶川市、伊奈町
実施主体	アブセック（上尾地区ビジネスキャリア・エンジョイサークル）
活動要約	企業OBの専門的知識や資格を活用して、地域の中小経営支援や、地域活動や、会員交流を行っている。
主な分野	「コミュニティ・ビジネス」・「技能獲得・継承」・「世代間交流」・「趣味」
主な関係者	企業OB会員数：178名（実質活動会員で、56～88歳 平均68.7歳） 商工会議所：上尾商工会議所、桶川商工会、伊奈商工会
キーワード	中小企業経営支援／企業OB／3ガイ活動

## ■活動のきっかけ・経緯

- ・上尾商工会議所では隣接のさいたま市との合併構想が頓挫したときに、その存続強化を図るべく、平成13年から「新規事業検討特別委員会」を設置し、新年度に立ち上げる活動事業を検討していた。その一環として地域に存在する企業OBの力を結集して商工会議所の事業活動を活性化する目的で検討と準備を行い、平成15年4月に商工会議所を事務局とする任意団体として、シニア世代の社会進出の受け皿となる企業OBの会を立ち上げた。
- ・その設立趣旨は、上尾在住の企業OBが有するノウハウ、経験、技術力を、企業支援、地域社会への貢献に生かし、中小企業の活性化や活力ある地域の創出を図るとともに、リタイアした企業OBのセカンドライフを企業OB組織として、健康で「生きがい」「やりがい」のある人生の実現と会員の交流を図り自身が「ナイスガイ」になることにある。
- ・この組織は隣接の桶川市、伊奈町の商工会の参画を得て広域で活動することから、上尾地区ビジネスキャリア・エンジョイサークル、「アブセック」と命名した。

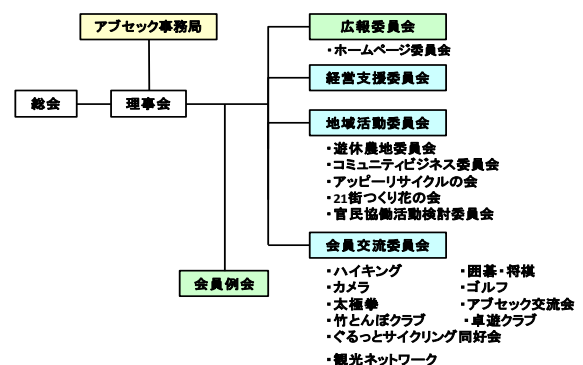
## ■活動内容

### ■活動実績

- ・創設の平成15年からこれまでの活動実績は、支援企業226社に、経営支援が延418件で支援者数が560人で、最近は年間約70件の支援を行っており、支援企業と支援者は共に毎年増加している。また地域活動支援は、延65件で支援者数は545人で、年間約20件の支援を行っている。

### ■活動組織

- ・アブセックの組織は、理事会の下に支援・活動の内容に応じた各委員会があり、企業を支援する「経営支援委員会」、地域の活性化の活動を行う「地域活動委員会」、会員相互の交流を図る「会員交流委員会」の他に、広報や情報収集を行う「広報委員会」や「ホームページ委員会」を設けており、各委員会は主体的に運営している。



＜アブセック組織図＞



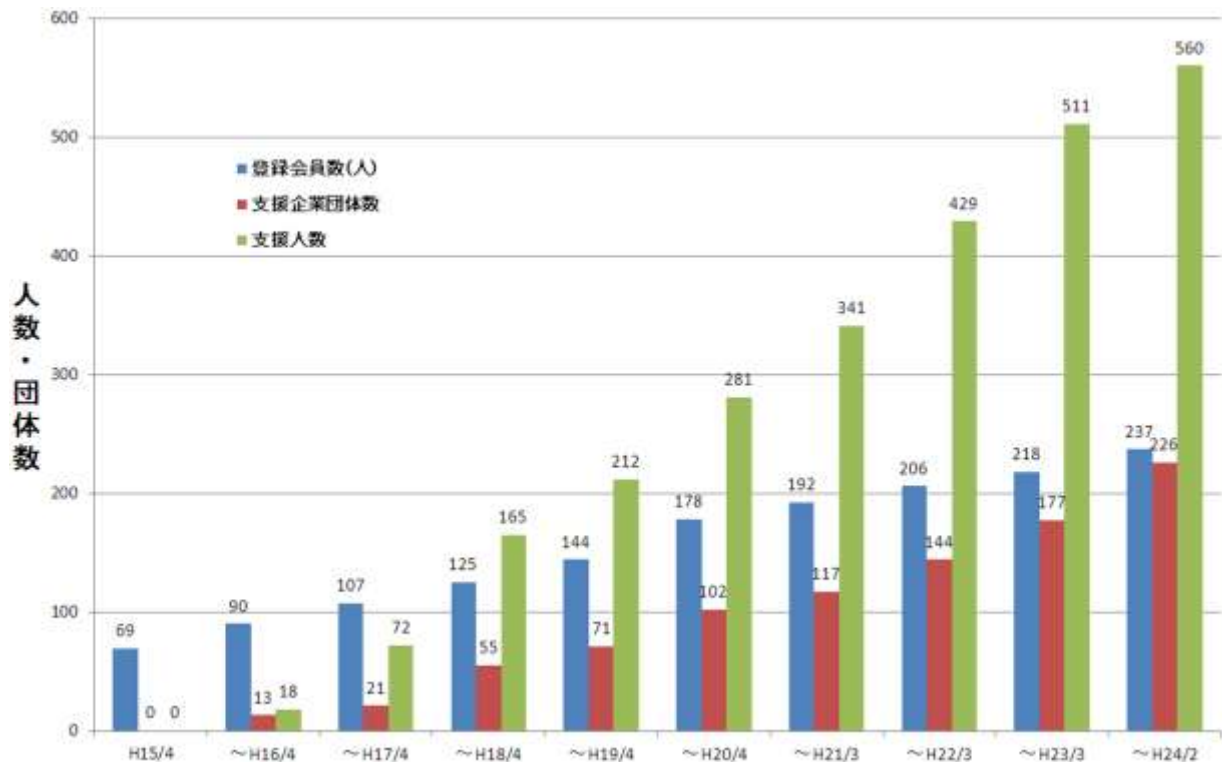
## ■会員の構成と支援活動

- ・支援登録会員の構成を見ると、登録会員 237 名（実質活動中会員 178 名）平均年齢 68.7 歳で、社労士、診断士、技術士、FP、博士などの資格を所有する者も参加し、いずれもボランティアな気概に富み少しでも中小企業の経営を支援し、地域の活性化の起爆剤になりたいと考える参加意欲の高い実務経験豊富な企業 OB 集団であることが判る。

【居住地】		【専門分野】		【保有資格】			
上尾市	118	管理	77	中小企業診断士	10	宅建主任	13
さいたま市	21	技術・生産	71	経営コンサルタント	13	ISO関連	12
桶川市	13	営業	20	社会保険労務士	6	技術士	7
伊奈町	9	情報	8	行政書士	5	FP	4
その他	17	その他	0	博士(農学、工学)	3	建築士	4
計	178	計	178	公認会計士(米国)	1	造園管理士	2
				原価管理士	1	SE	2
				衛生工学士	1		

### <登録会員の構成（実質活動中会員 178 名）>

- ・経営支援は、全会員のうち約 70 名が行っており、1クール 3か月 週1回3時間で、時給 1,500 円と交通費の負担で、会員企業の依頼要請により先方へ行ってアドバイザー業務を実施している。業務は実務支援を基本とし現場に入り作業を行うために、活動が浸透した現在は複数クールや3年以上の長期間支援を続けるケースが多くなっており、中には常勤で雇用契約になるケースもある。
- ・平成 15 年から平成 24 年にかけての約 9 年間の会員・支援企業・支援者の推移を以下に示す。会員・支援を受ける企業は徐々に増加している一方、支援を行う人数は近年大きく増加しており、年々長期間の支援を行う傾向にあることが分かる。



### <会員・支援企業・支援者の推移 (H15.4~H24.2) >

## ■各委員会の活動

### 【経営支援委員会の活動】



<経営支援委員会>

- ・ 経営支援活動は、アブセックの基幹となる会員の「生きがい」を求める経営支援活動であり、その役割はマッチング活動と支援企業の掘り起こしである。
- ・ マッチング活動は、「何事も Face to Face」の行動理念を実施し強化・発展を図っており、支援企業の掘り起こしは、アブセック会員による訪問面談で支援ニーズを発掘している。

### 【地域活動委員会の活動】

- ・ 地域活動委員会は、街づくり、地域の活性化など地域貢献を目指す「やりがい」を求める活動で、自分の力に応じて色々な場面で参加でき、会員が大勢参加し地域レビューを実現している。
- ・ 委員会活動は、遊休農地委員会、アッピーリサイクルの会、コミュニティビジネス委員会、21 街つくり花の会の4委員会を設置し定例的に検討会を開き、市や農協、商店街グループなどとタイアップして各種協力、提言活動、イベント参加等を実施している。



<21 街つくり花の会>



<竹とんぼ教室>



- ・ ボランティア活動は、高齢者が指導する竹とんぼ教室の他に、自然観察会、工場見学会、サッカー観戦ツアー、お祭りなどでのよろず相談や各種教室、地域イベント等に参加して行っている。

### 【会員交流委員会の活動】



<アブセック交流会>

- ・ 会員交流会委員会は、アブセックの特徴である会員が「ナイスガイ」になることを目標にして、会員同士の情報交換・親睦・交流を行っている。  
このような活動の場を通して他の会員から企業支援情報を得ると共にコーディネータは、会員の考え方を知り正確なマッチングに生かしている。
- ・ アブセック交流会を月2回開催し、意見交換を行っており年間延 400~500 人が参加している。

## ■ポイント・工夫している点

- ・事業主が会員という商工会議所が主体となり、企業OB組織であるアブセックと一体となり、地域の課題解決を目指す地域活性化システムであることが一番の特徴で、例えば企業への個別訪問・面談にはアブセックの名前だけでなく商工会議所・商工会が紹介することによりスムーズに進めている。
- ・支援者の行動理念として、『Face to Face』『待より行動』『理論より行動』の3つを掲げて、コミュニケーションや積極的な行動と実践に重きをおいている。
- ・また「経営支援で生きガイ」「地域活動でやりガイ」「会員交流でナイスガイ」の『3ガイ活動』を、活動スローガンとして掲げて推進している。
- ・地域活動などの新たな委員会やグループの設立は、7名以上集まれば立ち上げることができる自発・自主運営を基本としており、会費や活動場所の確保なども自主的に行うこととしている。
- ・企業支援にあたっては、うまく進まなかったり問題が発生した時は、コーディネータが現場に行って状況を把握し一緒に検討やアドバイスなど迅速十分なフォローを行うようにしている。
- ・支援で企業に行くと会員同士やコーディネータとは、週報以外に常日頃会う機会が少ないために、商工会議所のグループウェアのホットビズ（HotBiz）を使って、アブセック週報の配信や会員やコーディネータ間の情報交換に有効活用している。

## ■課題と今後の展開

- ・アブセックは、今後も商工会議所・商工会と密接な連携を保ち活動展開を行い、中小都市における「地域密着型のモデル組織」として中小企業に対してきめ細かい指導活動を展開して行く考えである。
- ・登録会員の知識、能力等の研鑽のための研修会や事例発表のフォーラム、地域活動、会員交流活動などの諸活動を通して、会員の参加意欲・入会時のモチベーションの維持向上を図り、マッチング実績を向上させ、中小企業の満足と企業OBである会員の「生きがい」「やりがい」の実現に努力していく。
- ・現在の上尾・桶川・伊奈の枠組みを超え、隣接する埼玉県東部の商工会にも広域的に活動を展開しネットワークを構築し情報の共有化を図り、アブセック活動の拡大推進を図って行きたい考えである。
- ・更に、このような組織が各商工会議所・商工会を中心に全県下に、そして全国に立ち上がり、活動が展開されることを期待しており、アブセックがそのような地域自治体と協働し行う地域活性化の起爆剤となりまたモデルになれるように日々努力して行きたいと考えている。

連絡先	アブセック（上尾地区ビジネスキャリア・エンジョイサークル） 住所：埼玉県上尾市二ツ宮750番地 上尾商工会議所内 電話番号：048-773-2391 メール：abcec@ageocci.or.jp
-----	--



(No. 30)

事例名	かながわ子ども教室
地域	神奈川県横浜市、川崎市、鎌倉市、茅ヶ崎市
実施主体	NPO かながわ子ども教室（代表 舟木 稯彦）
活動要約	企業退職者が小学生を対象に「たのしい科学・暮らしの教室」を開催
主な分野	「学習」・「世代間交流」
主な関係者	講師陣：60代～80代の企業退職者 48人（男性） 受講者：小学生
キーワード	企業退職者／シニアの自立と生きがい／子どもの健全育成／気付き

### ■活動のきっかけ・経緯

- ・神奈川県在住の三菱系企業退職者の集まりである「ダイヤかながわ交流会」の分科会として、2004年に発足。
- ・交流会の上部団体から社会貢献活動を促進する働きかけがあったのを機に、新たに取り組む課題についての検討会が組まれた。そこで出された100のシーズから、「子どもの健全な育成」と「高齢者の自立と生きがいづくり」が選ばれた。
- ・理系の出身者がそれぞれの知識や経験を活かし、テーマの設定（海洋、光学、電気、宇宙、環境等）教材作り（実験キットも全て手作り）、講師役を担うことで「たのしい科学教室」がスタートした。
- ・開始当初、文系出身者は事務や広報などを中心に担当していたが、近年ではお金や世界、食べ物、水、行事などの社会科系の教室「たのしい暮らしの教室」を開催している。
- ・2009年4月から、「NPO法人かながわ子ども教室」として「ダイヤかながわ交流会」から独立し、活動を展開している。
- ・NPO法人化してからは、かながわ交流会（三菱系企業出身者）以外からも広くメンバーを募り、現在は48名中で3名が三菱系以外の企業退職者。

### ■活動内容

神奈川県内の小学校の科学クラブ、コミュニティハウス、地区センター、学童、はまっ子ふれあいスクールや放課後キッズクラブ<sup>1</sup>など、年間100回を超える「たのしい科学教室」「たのしい暮らしの教室」を開催している。

教室開催の実績

	教室開催数	参加者数
平成17年度	23回	531人
平成18年度	75回	1,835人
平成19年度	84回	2,207人
平成20年度	112回	3,508人
平成21年度	132回	3,459人

<sup>1</sup> 「はまっ子ふれあいスクール」「放課後キッズクラブ」は、神奈川県横浜市が子どもたちの安全で快適な放課後の居場所作りの推進を目指した施策（<http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/houkago/houkago/index2.html>）。

#### ・「たのしい科学教室」

- 世の中の現象や自然の働きなどについて、講師自らが職業経験で得た知識を活かした体験型の実験や解説を行うことで、疑問を育むことに力を入れている。
- 海洋、光学、電気、宇宙、環境、液晶、エネルギー、地球、化学、糸電話、ミクロの世界、計11テーマについて教室を開催。

#### ・「たのしい暮らしの教室」

- 生命を支える食物や水がどのようにして届いているのか、世界の子どもたちはどんな暮らしをしているのか、日本の行事はなぜ行われるのかなど、暮らしの仕組みや世界の暮らしを身近な課題として考えることで、思いやりの心や自立心を養うことを目指している。
- 世界、お金、食べ物Ⅰ、食べ物Ⅱ、私たちと水、日本の行事、計6テーマについて教室を開催。
- ・教室の内容や教材、実験キットは講師のオリジナルで、毎回、主催者側の担当者などを交えた反省会を行うことで、常に改良している。
- ・単に実験を行うだけの工作教室や知識を一方向的に伝えるだけの座学ではなく、講師と共に体験して考えることで、参加した子どもがなんらかの気付きを得ることを基本理念としている。
- ・このため、講師の他に、各班（参加者を4~5名に班分け）にサポーターが付き、個々の子どもに寄り添った指導を行っている。

### ●講師陣

- ・理系や文系、エンジニアや開発職など、専門分野や従事していた職種といった個々の背景を通じて得た知識や経験を活かして、教室を企画・運営している。
- ・メインの講師を務めていない時は、他のメンバーが講師を務める教室でサポーターとしても活動し、お互いの教え方のノウハウを学びあっている。
- ・かながわ子どもの教室に関わるきっかけについては、加入する時期によって2つに分けられる
  - 設立メンバーは「理科好きの子どもを育てたい」、さらには「高齢者自身のアクティビティを高めたい」という想い（前述の100のシーズ）から。
  - 途中から加入のメンバーは、設立メンバーなどに声をかけられ、その想いに共感すると共に、おもしろそう（単一のテーマではなく、多様なテーマに取り組んでおり）と感じて加入。
  - 両者に共通して、単に遊ぶ（個人的な楽しみ）だけではなく、社会の役に立つ何かをしたいという想いをもっていた。

### ●受講生

- ・小学校の科学クラブ、自治体実施の放課後児童育成プログラム（はまっ子ふれあいスクール、放課後キッズクラブなど）、学童や児童館などを利用する小学生が中心。
- ・基本的には小学校3~4年生以上を対象としているが、学童や児童館などでは1~2年生が混じる事も多い（中学受験が盛んな地域は、高学年は塾などに通っているため、特に顕著）。



手回し発電機でファンの回転と豆電球の点灯、組み合わせを変更 寒い中何度も繰り返し木星とその衛星を見て感動

＜楽しい科学教室 左：小学校の理科授業「電気教室」 右：放課後キッズクラブ「光学教室」＞

2010年から「全国展開事業」と銘打って、講師を派遣してのノウハウ伝授など、かながわ子ども教室方式の普及を目指した活動を展開している。

- ・これまでに、熊本県熊本市、東京都三鷹市、石川県七尾などで事業を実施している。
  - 熊本県熊本市：かながわ子ども教室メンバーの知人（自治会の会長や地域でボランティア活動を行う三菱OB）がキーパーソンとなり、地域の銀行などとの連携のもと、小学校でデモンストレーションを行った。
  - 東京都三鷹市：子ども教室の開催に強い意欲をもつ「東京都多摩区インストラクターの会」が、かながわ子ども教室の助成を受けるため、(財)長寿社会開発センターに助成金申請の相談にきたのがきっかけで、教室の見学やサポーター体験を通じてノウハウを伝授し、全面的なバックアップのもと全国展開第一号の教室として産声をあげた。
  - 石川県七尾：子ども教室の開催に強い関心をもつ「石川県生涯学習インストラクターの会」のメンバーをサポートに、石川県の小学校で教室を開催。現在、連携の可能性を模索している。

## ■ポイント・工夫している点

- ・営業を担う「地域担当」が小学校や児童館などの子ども関連の機関に売り込む他に、会のメンバーが住んでいる集合住宅の管理組合などのネットワークから教室を開催する場所を開拓している（マンションの共用空間で教室を開催）。
- ・教室を開催した場を定期的に訪問することでニーズを把握し、学校の授業カリキュラムの変更などに柔軟に対応している。
- ・「ねんりんピック」<sup>2</sup>などの生きがい関連、「児童健全育成フェスタ」<sup>3</sup>などの子ども関連の各種イベントに積極的に参加することで周知をはかり、神奈川県外にも活動拠点を広げている。
- ・PRの役割を担う広報担当を置くことで、外部に対しての発信力を高め、活動資金源となる助成金の獲得にもつなげている。

<sup>2</sup> 「ねんりんピック」 <http://www.nenrin.or.jp/center/pic/>

<sup>3</sup> 「児童健全育成フェスタ」 <http://www.jidoukan.or.jp/project/old/festa/>



空気を抜くところよく探して、この会話が楽しい



「環境教室」ウルトラマンも空気圧に挑戦するも降参

＜「ねんりんピック」でのブース出展：たのしい科学教室＞

## ■課題と今後の展開

2004年に前身の「ダイヤかながわ交流会」の分科会として発足して以来、年間100を超える教室の開催、他の地域へのノウハウの伝授など、その活動は順調に展開しつつあるように見える。しかし、メンバーへのインタビューから、「資金面」と「マンパワー」についての課題が明らかになった。

### ●資金面の課題

- ：これまで大きな助成金を基盤にしての運営であったが、助成金が得られない場合の運営が可能か。
- 設立当初は会員の手弁当で活動していたが、規模も大きくなった今、手弁当での活動を行うことは困難（助成金を受けている現在は、手弁当でも活動を継続したいという意見が大半）

### ●マンパワーの課題

- ：設立メンバーの高齢化に伴い世代交代が急務となっているが、若いメンバーが入ってこない。
- 定年延長などでボランティア活動に参加する若手が減っているなかで、新陳代謝がはかれない。（会の中核を担う設立メンバーが後期高齢化）。

### ●全国展開への課題

- ：日本全国から自分の处でもやりたいというオファーは増えており、マニュアルも作っているが、資金面（遠方に講師を派遣する財源も無く、呼ぶ側にも想いはあっても財源は無い）とマンパワー（通常の教室を開催しながらの派遣に限界）がついてこない。

連絡先	NPO法人 かながわ子ども教室（代表：舟木 柁彦） 住所：横浜市戸塚区上倉田町1577番地72 URL： <a href="http://kanagawakodomo.com/index.html">http://kanagawakodomo.com/index.html</a>
-----	--